



寺報 ともしび

金剛山大長寺

令和五年一月一日発行

第十九号



インドの民族楽器シタールを手にされる康哉住職。12月、潮音寺にて

清香せいをか発する

安藤 康哉 (大長寺小住)

つつましく、老ゆる心に 梅の花

この俳句は元総理であられたお方の一句です。梅の花は寒苦をへて清香を発すると申すように不肖小生は大長寺住職として寒苦を耐え抜いて清香を発するよう努力精進しなければならぬ、と思いを新たにいたしました。

人はみな 煩惱具足の身なれども

合掌礼拝そのまま

仏のとうときみすがたぞ

一念唱名ねがうとき

南無釈迦牟尼仏と唄うべし

南無阿弥陀仏と唄うべし

檀信徒の皆さま、本堂、ご自宅の仏壇、お墓の前で「南無釈迦牟尼仏」とお唱えして、ご先祖さまに心を寄せて参りましょう。皆さまのご多幸を祈念致します。

合掌

新年のごあいさつ

大長寺 院代 安藤嘉則

謹んで初春のお慶びを申し上げます。大長寺のお檀家の皆様には本年が幸多き年でありますよう祈念いたします。

顧みれば、中国の一都市から始まったコロナ禍、ウクライナの戦火がもたらした食糧不足、急激な円安による物価高など、世界情勢が私たちの身近な生活に影響をもたらしてきました。またマスクやネットなどの媒体から洪水のような情報もたらされるとともに、SNSによる他者への中傷や誤った情報の発信などが問題となっております。

こうした状況下において、私たちが心がけたいのは確かな情報に基づいて行動することです。今年はずき年ですが、ウサギにちなんだ古語に「鳶目兎耳（えんもくとじ）」

という言葉があります。トビの目は遠くのものを目ざとく見つけ、兎の耳はどんな小さな音ものがさないとを意味しますが、私たちは注意深く様々な情報を見極めていくことが必要です。そして私たちの日常の人間関係においては、正確な情報の獲得とともに、心と心の相互理解を大切にしたいものです。「心耳を澄ます」という言葉がありますが、それは人とのつながりにおいて、単なる会話のやりとり（言葉の情報）ではなく、「心の耳」で相手の心を受け止め、相手により深いところで理解することに他ありません。

たとえ道はずれようとする息子に対して父親が全身の厳しく叱責するとき、その関係を断絶してしまう人もいます。逆にその言葉を「心の耳」で受け止め、自分に対する父親の限らない思いの発露として肝に銘じる人もいます。

また苦悩に沈む人のその沈黙の中に苦しみの声を「心の耳」で聞く人もいれば、言葉のレベルでしか受け止められない人もいます。情報氾濫の中で精神的孤独感をもつ多くの人にとって、真の人と人とのつながりが求められています。そのためにも相手思いやり、言葉の奥底にある真の叫びを受け止める「心の耳」が今の私達に必要なのではないのでしょうか。

特別志納者の紹介

壹拾万円也	為年回供養	下島 井上 基	壹拾万円也	為年回供養	横浜 大島 重人
参万円也	為年回供養	小田原 鈴木まり子	壹拾万円也	為年回供養	榎本 石井 菊義
伍万円也	為大練忌供養	下島 井上 広一	壹拾万円也	為年回供養	榎本 石井のぶ子
壹拾万円也	為葬儀供養	榎本 小塚 亮一	壹拾万円也	為年回供養	榎本 山崎 伊望



秋の彼岸中日の永代祠堂祭。9/23、大長寺にて

護持会費について

副住職 安藤道隆

護持会費（令和五年度分）

の集金につきまして、令和四年十二月に、全お檀家さまに郵送いたしました書面が、開成町に居住の方向けの内容になっておりましたので、あらためて触れさせていただきました。

今後、大長寺のお檀家さまの護持会費（令和五年度分）の納入方法は、左記のとおりに変更されますので、ご承知のほどお願いいたします。

納入方法

- (一) 振込用紙（ゆうちょ）を用いて振込、又は銀行振込
- (二) お寺に直接、持参

持参による納入時期は

- ① 施食会（四月二十三日）
- ② お盆供養（八月十五日）
- ③ 各家 お墓参りの際

とに変更いたしました。

開成町に居住で、従来、世

話人による集金をされていたお檀家さまも同じように変更

納入期限

秋彼岸のあと、九月末までといたします。

なお、護持会費の納入の依頼文書と振込用紙は、令和五年三月末に郵送します。

※従来は、十二月に護持会費納入の依頼をしております。

この護持会費の納入方法の変更につきまして、前回の「ともしび」にも掲載しておりますが、昨今のコロナ禍に加え、高齢化が進み、家族構成が変化し、ご不在の方も多くなり、世話人さまにかかる負担を軽減するためであります。

お檀家の皆さまには、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



ご逝去の方々と命日

・故 井上 トシ江 様
行年 八十九歳
令和四年八月三日没
上島 施主 井上 浩 様



秋彼岸、墓参りをされる檀信徒の方々。9/23 大長寺にて

・故 井上 玉代 様

行年 九十二歳

令和四年八月三日没

下島

施主 井上 忠 様

・故 長谷川 純一 様

行年 四十五歳

令和四年十月二十日没

延沢

施主 長谷川 寛美 様

・故 大野 千ヨ 様

行年 九十二歳

令和四年八月七日没

中家村

施主 大野 友之 様

・故 井上 喜子 様

行年 七十九歳

令和四年十一月二十四日没

横浜市

施主 井上 喜道 様

・故 小塚 芳江 様

行年 八十九歳

令和四年八月十六日没

榎本

施主 小塚 亮一 様

・故 佐野 央子 様

行年 八十八歳

令和四年十二月六日没

上島

施主 佐野 章 様

・故 井上 輝 様

行年 八十一歳

令和四年九月一日没

小田原市

施主 井上 トヨ子 様

・故 田中 實 様

行年 八十八歳

令和四年十二月十一日没

上島

施主 田中 友子 様

・故 川崎 健造 様

行年 八十九歳

令和四年十月四日没

南足柄市

施主 赤川 純子 様



大長寺のお地藏さま



大長寺には、山門入って左側に六地藏が、さらに進むと大きなお地藏さまが祀られております。

お地藏さまは「関東百八地藏尊観音第九十五番霊場」として信仰されており、六地藏さまは、煩惱に苦しむ衆生を救ってくださる菩薩さまであります。

これらのお地藏さまの赤い帽子と前掛けを大長寺婦人会の皆さまが、毎年、編んでい

ただいております。お地藏さまの頭は坊主なので、冬は寒そうにみえるのです。

実際、坊主である副住職は、冬場において寒さをしのぐには、髪の毛は大事であるとかつくづく感じております。

婦人会の皆さまの温かい気持ちで帽子や前掛けとなつて、お地藏さまを拝む参拝者の気持ちを和ましてくれます。
(道隆記)



お地藏さまの前掛けを作った婦人会の皆さん